生涯学習プログラムガイド集Ｎ０.22　　R３(2021).10

地域と共にある学校づくり

発行：　長野県教育委員会事務局　文化財・生涯学習課

生涯学習プログラムガイド集ホームページ：https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/bunka/shogai/guide.html

1　学校と地域で目標やビジョンを共有するための「熟議」

県教育委員会では、学校と地域が互いに課題を出し合い、理解を深め合い、それぞれが役割分担をしながら育てたい子ども像を話し合っていくために、学校運営委員会（学校運営協議会）での「熟議」を大切にしてほしいと考えています。

「熟議」とは、学校職員や保護者、地域の方等、学校に関わる様々な立場の方が集まり、地域や学校の課題を共有し、互いの立場や役割への理解を深め、課題を解決していくために、自分に何ができるかを考えることです。

学校と地域が未来を担う地域の子どもを育てるパートナーとして同じ目標を目指し、学校と地域で連携・協働した協働活動が各学校で取り組まれています。

今回の生涯学習プログラムガイド集では、最初に学校運営委員会での熟議の様子を紹介します。

「何をするか」でなく「何のためにするか」（長野市立西条小学校）

長野市立西条小学校では、地域の方の多大なる御協力を得ながら、米作りや、菊の栽培など、様々な活動を実施していました。しかし、学校ではある課題を感じていました。

活動は活発だし、地域の皆さんも協力的。だけど、行っている活動が、子ども達のどんな育ちにつながっているのかはっきりしないなあ。

○学校・地域のキーマンが同じ方向を向いて進み出した！【令和２年 12 月】

12 月に行われたコーディネーター研修会に、教頭先生と運営委員長が共に参加しました。ここで聞いた講師の言葉にはっとしたそうです。

コミュニティスクールの活動をしようとすると、何をするかに注目が集まります。でも、本当に大事なのは「何をするのか」でなく、「何のためにするか」。「育てたい子どもの姿」を話し合うことからはじめませんか？

「学校も地域も、育てたい子どもの姿を意識してとりくめていただろうか？」
「コミュニティスクールの意味について、共通理解をはかってきただろうか？」

学校と地域のキーマンである２人が共に研修会に参加して考えることを通して、共通の課題意識をもつことができたことが大きなきっかけとなりました。

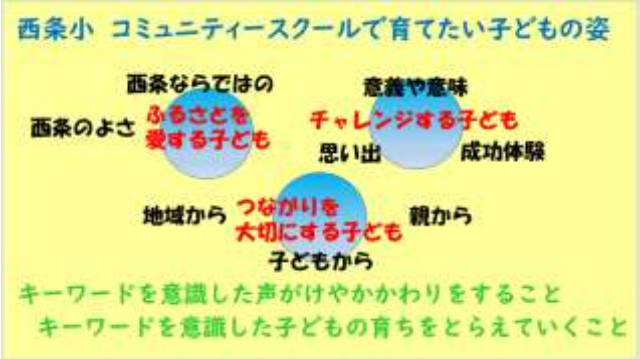
ここから、学校と地域が同じ方向を向いて「何のために活動を行うのか、話し合おう。そして、西条小学校コミュニティスクールの目的をはっきりさせよう！」という方向が決まりました。

○熟議で、日常の会話で、思いを語る【令和３年１月～５月】

年明けの会議等の折に、運営委員長と教頭先生が話し、次年度に向けての課題を明確にしていきました。そして新年度に入ってから、コーディネーター４人が集まり、コミュニティスクールの目的を確かめ「子ども達のどんな育ちをねがうのか」について熟議を行いました。

設定した話し合いの場以外にも、顔を合わせた際に密に話を重ねました。実際は「ねがう姿」は？とお聞きしたことに対して「こんな姿」という具体的で明快な答えでなく、いろんな言葉で思いが語られたそうです。その多くの言葉の中にあふれる思いの中からキーワードを見つけ出して、形にしていったそうです。

○キーワードから紡ぐ「育てたい子どもの姿」　～職員会でも共有～【令和３年６月】



こうして、熟議を行い、日頃から話をし、キーワードを紡いで形になった、西条小学校の「育てたい子どもの姿」は、職員会で先生方にも共有されました。先生方は「地域の方をお呼びするのは、多様な教育環境を子ども達に提供するため」と捉え、地域と共に活動を行っています。

教頭先生は「コミュニティスクールを知ってもらうためには、常に関係者同士が話をしていかなくてはいけない」と考えているそうです。

今後も様々な機会に、「育てたい子どもの姿」を共有し、熟議を続けていくことで西条小学校のコミュニティスクールが推進されていきます。

（北信教育事務所生涯学習課　指導主事　岡田　絵美）

村の子どもについて考える場を（泰阜コミュニティスクール）

泰阜村では、子どもに関わる様々な課題について、これまで以上に学校・家庭・地域が一体となって考えたいと願い、これまでのコミュニティスクールを見直し、学校・家庭・地域の方針や取組について相互に承認と評価を行う、新たな泰阜コミュニティスクールを令和３年３月に発足させました。

○学校運営協議会　発足会

３月に開かれた学校運営協議会の発足会では「目指す子ども像」について話し合われました。

- 挑戦できる子
- 大きな声で誰にでも挨拶のできる子
- 自分で考えて実行できる子
- 地域を大事にできる子
- 自己表現できる子
- 人の良さを認められる子
- 責任ある行動をとれる子
- 思いやりのある子
- 気働きができる子
- 自分の良さに気付いて自信を持てる子
- 生きていることを素晴らしいと思える子

グループに分かれての熟議では、学校・家庭・地域、そして接している子どもの年齢によっても様々な意見が出されました。その一つ一つの意見に、村の子どもに対する温かな思いが込められており、もっと熟議を重ねて「目指す子ども像」を決め出していきたいとして、「目指す子ども像」を空白としてスタートすることにしました。

運営委員の方からは、「学校・家庭・地域の人が集まって『目指す子ども像』について議論したことが大きなことだ」という感想が出されたそうです。

○話し合う過程を大切にしたい

コーディネーターをされている教育委員会子ども家庭相談員の小黒あかりさんは「小・中学校の校長先生方が地域のみなさんの思いを大切に受けとめてくださり、グランドデザインに『地域から学び、地域の一員としての自覚を育成（中学校）』『社会的に自立していく子どもを地域で育てる（小学校）』の言葉を加えてくださるなど、学校運営協議会で出てきた意見を学校運営計画にも生かしてくださっています。子ども達に関わる課題について、**学校や家庭・地域、大人も子どもも、みんなで考えていくことを大切にしていきたい**」とお話しくださいました。

原田瑞穂教育長からは「**決まったことが一方向的に伝わるトップダウンではなく、みんなで考えるということを大事にしたい。**コミュニティスクールは、そのための大切な熟議の場だと考えている。今後は、タブレットの活用や部活動など、毎回テーマを決めて熟議を行う」ということを伺いました。

泰阜コミュニティスクールでは、「目指す子ども像」について、これからも熟議を積み重ねていきます。そこには、子どもに関わる全ての人が当事者意識を持ち、共に子ども達の育ちを支えていきたいという強い思いが込められています。そうやって共有される「目指す子ども像」であるからこそ、地域や学校で行われる協働活動が、子ども達の育ちにつながるのではないかと思います。

（南信教育事務所飯田事務所　指導主事　伊藤　公敏）

2 運営委員会で学校と地域で課題を共有した協働活動

運営委員会では、学校と地域の様々な課題が共有されます。互いの立場や役割への理解を深め、課題を解決していくためにどんな協働活動を行っていくのかについても、学校と地域で話し合われています。

ここからは、運営委員会での協働活動についての話し合いの様子と、その話し合いが協働活動にどのように生かされているかについて紹介します。

「意見交換から活動の方向性を決め出した運営委員会」（小諸市立小諸東中学校）

小諸東中学校では、平成 30 年度から学習支援ボランティアとして地域の人に入ってもらい放課後に自主学習を行う「学びの庭」が立ち上げられました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できませんでしたが、一昨年度は 13 名のボランティアによる支援があり、１年間で英語と数学の学習を中心に 20 回ほど実施されていました。職員会議や学年会などの会合の時間に、ボランティアの方たちにより実施されていました。本年度の運営委員会の中で学校から「秋から学習ボランティアを再開したい」と提案があり、学習形態について話し合いをとおして願いを共有しました。

○話し合いの様子

1　学校、生徒、ボランティアの願いを共有する

◇**学校の願い**

放課後の学習支援を始めたきっかけ

・自分で学習に取り組む自立した学びの場を設置したい

・家庭での学習になかなか取り組めない生徒にとって少しでも学習時間を保障したい

◇学習形態への生徒の願い
同学年の生徒でまとまっている環境がいい

〇メリット
・異教科を学習していても、困ったときに友だちに質問しやすい。
●デメリット
・生徒によって異教科を学習していると、ボランティアの得手、不得手があり支援しにくい。
→ボランティアが教室を回るなどすることで、対応可能

◇学習形態へのボランティアの願い
異学年の生徒でも同教科を学習している生徒がまとまっている環境がいい
〇メリット
・上級生が既習事項を下級生に教えることができる。
・同教科を学習する生徒が集まっている方が指導しやすい。
●デメリット
・先輩と後輩が一緒に学習するよりも、同学年が一緒の方が学習しやすいと感じる生徒がいる。

「安心して自分の学習に向き合う時間にする」には、同学年の生徒で学習する方が良さそうですね。

２　学習形態を決定する
放課後学習の目的、生徒の実態、学習形態によるメリット・デメリットを共有する中で、「学びの庭」で大切にしたいことは「安心して自分の学習に向き合う時間にすること」と共通理解を深めました。生徒同士が学び合うことも大切ですが「学びの庭」では、自分で問題に取り組んで先生やボランティアに質問しやすい環境を整えることを重視し、学習形態を決めました。

新しい学習形態も検討しましたが、結果的には一昨年と同じ学習形態で学習することになりました。しかし、「別のやり方の方がよいのでは」と思いながら支援するのと、いろいろな方法を検討して「このやり方がよい」と納得して支援するのでは、ボランティアの参加意欲が大きく変わってくることが想像できます。学校がやりたいことをお願いして、地域の方に支援してもらうのではなく、学校と地域が対等な立場で、生徒を真ん中において率直に互いの想いを共有することで、学校と地域が協働してより良い活動の方向性を見出していきました。

（東信教育事務所生涯学習課　指導主事　馬場　直樹）

学校運営委員会での課題の共有から広がる不登校支援

〇地域の力を学校に～学校運営委員会の立ち上げ～

南信教育事務所管内にある小学校の取り組みを紹介します。平成 29 年度に学校運営委員会を立ち上げました。その際、大きな変革をするのではなく、自校の良さを残せるものにしたいという願いがありました。これまでの良さとして、調理実習や裁縫の時間になると保護者が手伝いに来たり、５年生の米づくりの授業には農家の方が手伝いに来たり、習字の授業には書道が得意な方が来たりするなど、様々な形で地域の方が学校に関わっていました。
学校運営委員会が立ち上がったことによる混乱や不安が生じないようにし、学校と地域が長い時間をかけて育んできたつながりは、引き続き継続したいという願いでスタートしました。

〇不登校支援を柱に活動開始
現在のコーディネーターは２代目で、社会福祉協議会にお勤めの方です。もとは学校評議員の方でした。学校運営委員会の中で、学校の課題について、不登校もしくは不登校傾向の児童がいることが話題になりました。

何とか支援できないかという話があり、不登校支援を柱に活動していくことを確認しました。何度か話し合いをする中で、不登校傾向児童の中には、朝食を食べていない児童が少なからずいることがわかりました。また、登校している児童の中にも朝食を食べてこない児童がいることもわかってきました。

そこで不登校支援の１つとして、朝食支援を行うことにしました。社会福祉協議会がお米を提供し、学校の職員がおにぎりをにぎるというものです。お米は提供できるが、毎朝お米を炊きおにぎりをつくる時間が無い社会福祉協議会と、ご飯を炊きおにぎりをつくることはできるが、お米を購入することができない学校が、互いのメリットを生かした作戦です。おにぎりを用意しておくことで、少しずつ登校できる日が増えてきた児童もいるそうです。

他にも、家に引きこもりがちの児童に対し、社会福祉協議会の職員が声がけを行いながら、家から外に連れ出す支援も行っているそうです。無理せず、少しずつ家（部屋）から出られるようになった児童もいるそうです。

また、学校にとっては、授業や学校行事等で手厚い支援を受けられること、社会福祉協議会にとっては地域福祉の充実に加えて、学校の授業に防災の体験学習などを新たに位置づけられることなど、お互いにとってメリットがあり、ウィンウィンの関係が築けているそうです。昨年度末、「来年度もコーディネーターやらせてもらいたい」と、現任のコーディネーターから連絡があったと嬉しそうに話をされている教頭先生の笑顔が印象的でした。

学校が抱えている課題について学校運営委員会で共有して、対応策を決め出していくことで、関わる人たちが無理なく活動することができます。学校運営委員会を活用したＰＤＣＡサイクルがさらに広まっていくことを期待しています。　　（南信教育事務所生涯学習課　指導主事　唐澤　秀司）

3 多くの方と目標やビジョンを共有する工夫

県内には、保護者の方やボランティアの方等学校に関わる地域の方とも情報共有したり、互いの願いを語り合ったりできるような場所づくりに取り組む学校があります。

ここでは、幅広い地域の方と学校が気軽に語り合える場を、学校と地域が一緒につくっていこうとする取組を紹介します。

もっと気楽に話そうよ♪「北小カフェ」（大町市立大町北小学校）の取り組みから

大町市立大町北小学校には、地域のボランティアの方が気軽に来て話ができる場所として「北小カフェ」があります。６月 17 日（木）に行われた中信地区コーディネーター等研修会で、この取組について発表していただきました。

○「北小カフェ」設立のきっかけ

2019 年、当時の PTA で、読み聞かせや英語のボランティアから、学校運営協議会委員として学校に関わってくださっていた方が「形式的ではなく、もっとざっくばらんに話す場があれば」ということでコーディネーターの方や校長先生とも協力して立ち上げたのがこの「北小カフェ」です。月に１回、ボランティアによる朝の読み聞かせが終わった後の９時から開いています。

○学校の縁側のような場所に

これをコンセプトに、様々な立場の方が集まって話をしていきます。ボランティアの予定表を見て自分たちにできそうなことを話し合ったり、放課後子ども教室でできることはないか話題にしたり、お母さんたちの悩み相談になることもあります。

また、2021 年３月には、先生方との対話の時間をとり、具体的にどんなことができそうか、どんなところに悩みがあるかを共有することができました。

私が参加させていただいた今年５月の会では、15 名の方が参加。読み聞かせボランティア、性教育アドバイザー、学校運営協議会委員、包括支援センターなど様々な立場の方が集まり、それぞれの子どもたちへの思いを話されていました。「自分の子どもはもう卒業してしまったんだけど…」というＰＴＡのＯＢ、ＯＧの方が何人か来てくださり、若い層が学校運営に関心を持ってくださっていることから、長期的に続けていける展望が見られました。

○学校のビジョンを共有しよう！

この日は、自己紹介の後、校長先生から北小のコミュニティスクールのビジョンについて分かりやすく説明がありました。「大人にも得手不得手がある。不得手な部分を補い合って子どもたちのために力を出し合おう」ということから始まり、学校の目指すビジョンや今、先生方が全校で取り組んでいる「対話を軸とした協働の学び」についての説明がありました。

このように学校側の描くビジョンを共有しながら、自分たちに無理なくできることを対話の中で見つけ出していく。それをもとにアクションを起こしていく、というのがこのカフェの目的でもあります。参加した方からの感想には、次のようなものがありました。「時間を忘れて語らう楽しさを感じた」「会議や見学と違って、リアルな声を聴くことができ、実態を知ることができる」「人と人とのつながり・ぬくもりを感じる」「自分も子どもたちのために何かできないか、してあげたい欲が出てきた」大人がとても充実感を得ていることが分かる内容だと思います。

まだ、始まって間もない活動です。ここからどのように子どもたちとの活動につながっていくか、とても楽しみです。　　（中信教育事務所生涯学習課　指導主事　大工原　雅将）

長野県生涯学習推進センターより講座のご案内

地域づくり推進研修

オンライン開催　11 月 12 日（金）13:00～16:00

「長野県の子どもの自殺と現状と課題 ～今、私たちにできること～」

全国の自殺者数は減少傾向でしたが、令和２年度は増加に転じています。児童生徒の自殺者数は減ることなく、平成 28 年から令和２年に掛けて増加し続けています。県内では未成年者の自殺死亡率が全国の中でも高い水準にあり、子どもの自殺対策は喫緊の課題です。

本講座では、子どもの自殺の実態について理解を深めるとともに、私たちが小さな気遣いで日常的にできる支援について学びます。

どのように子どもと関わればよいのか、学べます。

説明：「長野県の子どもの自殺の現状及び対策について」
講師：**長野県健康福祉部保健・疾病対策課**
講義：「大切な人の悩みに気づく、支える私たちにできること
～あなたもゲートキーパーに！～」
講師：**長野県精神保健福祉センター**
講義：「子どもの自殺の現状と対策の課題
～今、私たちにできること～」
講師：NPO 法人自殺対策支援センターライフリンク　　**代表　清水　康之　氏**

講座内容の詳細や申込方法については、県生涯学習推進センターのホームページ、または「長野県総合教育センター　研修講座案内」をご覧ください。HP はコチラ⇒

☆これからの学校づくりのご参考に！多くの先生方のご参加をお待ちしています。